

(様式第2号)

議会報告会（意見交換会）実施報告書

R8年 5月 27日

都城市議会議長 様

広報広聴委員長 坂元唱子

議会報告会（意見交換会）実施要領の規定（11—イ）により、次のとおり報告します。

開催日時	令和8年 5月 15日（金） 18時 00分～ 19時 30分					
開催場所	都城市コミュニティセンター 2階 研修室					
出席議員	坂元唱子 東裕一 森りえ 郡山徳博 黒木善寿 岸川たかのり 井川真 川崎龍希 中村千佐江 岩元弘樹 徳留八郎 神脇清照 畑中ゆう子 川内賢幸 たかだみか					
役割分担	班長	坂元唱子	副班長 司会者	東裕一	記録者	岸川たかのり
参加人数	結婚支援の会 良縁どっと混む7名 議員 15名					
意見交換会の種類	公民館公募型 ・ 地域テーマ型 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 団体公募型					
団体名	結婚支援の会 良縁どっと混む					
テーマ	都城市の婚活に対する現状と今後の取組について					
意見交換の概要 (主な意見・質問・要望等)	<p>結婚支援の会 良縁どっと混む様と議員との意見交換会を実施し、20代から30代の独身者を中心とした婚活支援の現状と課題、今後の方向性について意見を交わした。</p> <p>【婚活イベントへの参加人数を増やすための取組について】 現在は1回のイベント参加者が2～3名程度に留まっている一方、以前は20名以上の参加があったことが報告された。背景として、「婚活情報が市民に十分届いていないこと」が挙げられ、市公式LINE等を活用した情報発信強化の必要性が指摘された。また、イベント結果についても、単なる数字だけでなく、写真や動画を活用しながら実績を“見える化”することが重要との意見が出された。</p> <p>【結婚に対する意識調査について】 以前に市が実施した意識調査以降、社会情勢や働き方、女性の就労環境が変化していることから、現状に即した新たな調査の必要性が提案された。特に、女性は仕事での立場が変わってきたことなどで婚活イベントへ参加する時間を確保しづらいことや、「一人では参加しづらい」と感じる声が多いことが分かった。</p>					

	<p>【イベントを知らない人たちへの告知方法について】 「イベント自体を知らない人が多い」という課題も挙げられた。 婚活を個人の問題としてではなく、地域全体のまちづくりの一環として位置付け、ポイント制度やクーポン制度などを取り入れることで、自然に参加しやすい環境づくりが必要ではないかとの意見があった。</p> <p>【成婚数の目標、イベント数は適正か、現状のままの取組でいいのかについて】 成婚数の目標設定や事業評価についても議論が行われた。 現状は予算の範囲内でイベントを実施している状況であるが、成婚数だけでなく「仮交際数」なども含めたKPIを細かく設定し、効果検証を行うべきとの提案があった。また、看護師などシフト勤務の方は平日の方が参加しやすいケースもあり、多様な働き方に合わせた開催方法の工夫も必要との声があった。</p> <p>【出生数の目標や具体的な取組について】 出生数の目標や少子化対策について意見交換が行われた。 若者世代において、経済的・時間的余裕の不足が婚活参加の障壁となっている現状を踏まえ、「お見合いペイ」の導入や、年3回程度の無料交流会開催など、参加しやすい仕組みづくりが提案された。</p>
<p>その他 (今後の課題・感想等)</p>	<p>今回の意見交換を通して、結婚を希望している若者は多い一方で、情報不足や時間的・経済的負担、参加への心理的ハードルなど、複数の要因が婚活参加を妨げている実態が見えてきた。 特に、市の公式LINEなど既存の広報媒体を十分活用できていないことは大きな課題であり、行政と民間団体が連携しながら、対象世代へ情報を確実に届ける工夫が必要であると感じた。また、婚活支援を単発イベントで終わらせるのではなく、「地域で若者を応援するまちづくり」という視点で継続的に取り組むことが重要である。 さらに、婚活事業については、単にイベント回数を増やすだけでなく、成婚数や仮交際数など成果指標を明確化し、事業効果を検証しながら改善を重ねていく必要があると感じた。 今後は、「良縁どっと混む」などの民間の婚活支援団体と市が継続的に意見交換・情報共有を行い、若い世代が安心して出会い・結婚を考えられる環境づくりを進めていく必要がある。</p>

※「委員会テーマ」型については、実施後の報告は本報告書によらない。(所管事務調査による)